

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：11301

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K18476

研究課題名(和文) 東アジアにおける戦後歴史認識の横断的研究 戦後初期と1990年代を中心に

研究課題名(英文) A Interdisciplinary Research of Postwar Historical Perceptions in East Asia: Focusing on the Early Postwar Period and the 1990s

研究代表者

佐野 正人 (SANO, MASATO)

東北大学・国際文化研究科・教授

研究者番号：90248724

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究課題「東アジアにおける戦後歴史認識の横断的研究」の遂行にあたって、まず基礎作業として韓国での現地調査、および資料収集を行った上で、2020年1月に韓国全南大学校での国際シンポジウム「日韓関係を東アジアの中で考える」を企画・実行した。シンポジウムの成果については、2021年3月に明石書店から『思想・文化空間としての日韓関係 東アジアの中で考える』として出版され、本書は広い層の関係者や諸機関に配布を行った。2020年以降コロナ禍となったため、2021年にはオンラインでシンポジウム「日韓関係を東アジアの中で考える」を行った。また、研究成果を広く公表するために、ホームページを作成し、公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題「東アジアにおける戦後歴史認識の横断的研究」は特に近年の日韓関係において、戦後の歴史認識をめぐって相互にずれがあることが問題の根本的な原因となっていることに着目し、その原因や打開策を領域横断的な視点から解明しようとするものである。そのため、日韓、そして東アジア地域の研究者たちと連携し、日韓関係を東アジアの視点から再照明しようとした。その結果は国際シンポジウム「日韓関係を東アジアの中で考える」、およびその成果物である『思想・文化空間としての日韓関係 東アジアの中で考える』(明石書店)にまとめることができた。それらによって、近年の緊張した日韓関係へ一石を投じることができたと思う。

研究成果の概要(英文)：In carrying out the research project "Interdisciplinary Research on Postwar Historical Perceptions in East Asia", we first conducted a field survey in South Korea and collected materials as basic work. Planned and implemented "Thinking about Japan-Korea relations in East Asia". The results of the symposium was published by Akashi Shoten in March 2021 as "Japan-Korea Relations as an Ideological and Cultural Space: Thinking in East Asia." Since 2020 has been a pandemic, we held an online symposium in 2021 titled "Thinking about Japan-Korea Relations in East Asia II." In addition, in order to widely publicize the research results, a website was created and opened to the public.

研究分野：日韓比較文学

キーワード：東アジア 戦後 歴史認識 1990年代 映画 文学 韓国 中国

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の直接的な背景として、近年の慰安婦問題、尖閣諸島問題などによる東アジアと日本との間の緊張関係が大きな契機となっている。佐野は長年日韓の近代文学の比較研究に携わってきたが、その中で両国の間に強い文化的親近関係が存在することを実感し、様々な論文で1920年代から現在に至る両者の相互関係を追求してきた。そのような近代の東アジアの文化的親近関係から見るときに、近年の歴史認識をめぐる摩擦は深く憂慮すべき事態と感じられた。そのため、研究者として微力ながらその打開に一助したいという念願の元に、本研究の着想を得た。なお、本研究の元となった「日韓歴史認識の起源と展開」は平成26年度に科研費の挑戦的萌芽研究に採択されている(平成26年～平成28年)

(2) 特に今回の研究計画で「東アジアの歴史認識の横断的研究」を掲げたことについては、本研究の元となった「日韓歴史認識の起源と展開」において研究を進める中で日韓の二国間の問題として考えることに徐々に限界を感じるようになったことが関係している。特に中国との間での歴史認識問題を視野に入れることなしにはこの問題を十分に解明することができないと思うようになったのである。そのため、中国さらには台湾や東南アジアなどのアジア諸地域を横断的に比較研究する本研究を着想することとなった。

## 2. 研究の目的

(1) 東アジアでは韓国・北朝鮮・中国(中華人民共和国、中華民国)そして日本という国・地域ごとに、戦後の歴史過程はことなり、それによって歴史認識も相互に異なっている。それゆえ、日本と韓国、日本と中国、といった1対1の個別的な関係ではなく、東アジアを横断的に研究することが必要であると考えられる。戦後初期と1990年代を特に焦点化し、東アジアの横断的な歴史認識の形成過程と展開過程を再検討し、実践的に解決の糸口を探ることが本研究の目的である。

(2) 東アジアの歴史認識問題が長く解決の難しい問題として存在している原因の一つは相互の戦後(韓国や中国では光復後)に形成された歴史的自己アイデンティティの間に埋めがたい溝があることである。そのため、歴史認識問題を解決に向けて行くためには、互いのアイデンティティが形成された戦後直後の時期の東アジアに遡って再検討がされなければならない。

(3) また、本研究では1990年代以降の東アジアの歴史認識の展開に焦点を当てる。1990年代は韓国や台湾で民主化が進んだ時期であり、それと同時に慰安婦問題や竹島(独島)問題などが本格的に問題化されてきたことには深い関連性がある。民主化によって、軍事独裁政権下ではタブーとされてきた様々な問題が表面化され、人権問題や未解決の問題として提起され始めたからである。その意味で1990年代の社会状況や文化状況との関連性に焦点を当てた再検討がされなければならない。

## 3. 研究の方法

(1) 戦後初期の韓国と東アジア地域での歴史意識とアイデンティティの問題を迫るために、各国での社会状況と文化状況を調査する。主にマスメディアにおける歴史意識の形成と展開、文学での歴史意識の展開、映画、ドラマにおける歴史意識の形成と展開、という3つの方法を設定した。それらの調査を行った上で、各地域の状況を比較検討する。

(2) 1990年代は韓国や台湾の東アジア地域で民主化が進んだ時期である。その中で歴史意識が大きく変化していく様相について、マスメディアでのトピックや表象が変化していく過程を検証する。例えば女性の人権問題が提起されるのに従って慰安婦表象が変化する様相を検証する。また、文学作品、映画・ドラマにおいて同様に歴史表象(例:慰安婦の表象など)が変化していく経緯を検証する。また、同時期の日本を含めた東アジア地域での文学作品や映画・ドラマとの比較作業を行った。

(3) それらの作業の成果を踏まえて、2020年に国際シンポジウムを開催し、戦後の東アジアの歴史意識と相互認識をめぐる相互のコミュニケーションと問題の共有を図った。また、シンポジウムの成果について、書籍化し、広く公開した。

## 4. 研究成果

(1) 戦後初期、および1990年代以降の韓国での文学作品と映画作品について資料調査を行い、基礎となる資料目録を作成した。

(2) 戦後の東アジア(韓国、日本、台湾、中国)で、歴史意識やアイデンティティに関係すると思われる文学作品や映画作品についてピックアップし、それを基にして相互比較する作業を行った。

(3) 2020年1月13日に国際シンポジウム「日韓関係を東アジアの中で考える」を全南大学校において開催し、日韓台の研究者による問題の多角度からの接近を試み、相互の意見交換を行った。佐野は「ポストコロナルな視角から眺めた戦後の日韓関係 1990年代以降を中心に」の発表を行い、日韓のコミュニケーションの齟齬の問題を1990年代以降の日韓のマスメディアの変化という文脈の中で再照明した。

(4) 2021年1月にオンラインで国際シンポジウム「日韓関係を東アジアの中で考える」を企画・実行した。

(5) 上の2回のシンポジウムの成果を基にして出版作業に取り組み、2021年3月に明石書店から『思想・文化空間としての日韓関係 東アジアの中で考える』として出版した。

(6) 上の『思想・文化空間としての日韓関係 東アジアの中で考える』に関しては、広い層の関係者や諸大学、諸機関に配布した。

(7) 研究成果を広く公表するために、ホームページを作成し、公開した。タイトルは「ポストコロナル・アジア 東北大学国際文化研究科 国際日本研究講座 佐野正人研究室」とした。

(8) その他、2019年に国際日本文化研究センターの稲賀繁美氏を招いて東北大学において講演会「A.K.クーマラスワミと柳宗悦 植民地体制下での民藝復興の国際的共鳴現象」を行い、2020年には韓国の漢陽大学校研究教授の咸忠範先生をお招きして講演会「日韓映画技術交流史の流れ 朝鮮半島における東宝の特撮技術受容様相を中心に」を行った。

(9) 結論的に、日韓を含めた東アジアの歴史認識問題が大きな問題となったのは、東アジアで民主化が進んだ1990年代以降のことであることが明らかとなった。韓国では民主的メディアの登場によって慰安婦問題、独島(竹島)問題などのそれまでタブーとされてきた問題が浮上したのに対して、1990年代以降の日本ではそのような歴史的・社会的なコンテクストを受容できず、コミュニケーションギャップが広がったものと考えられる。そのため葛藤と対立が広がり、現在に至っている。この現状を打開するためには、日韓を始めとした東アジアのメディアが「全体的な理解」、つまり複合的な分野や時代にわたる相互の主体性を理解し共有するというヴィジョンの元に、和解の道を探るという作業が必要となるだろう。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐野正人	4. 巻 図書
2. 論文標題 ポストコロナルなアメリカ表象へ 韓国における 戦後 のアメリカ表象をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本比較文学会東北支部篇『問題としての「アメリカ」 比較文学・比較文化の視点から 』	6. 最初と最後の頁 111-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野正人	4. 巻 図書
2. 論文標題 李箱のトランスナショナルな日本語詩 「AU MAGASIN DE NOUVEAUTES」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『 』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野正人	4. 巻 図書
2. 論文標題 日中戦争期の言説としての安田与重郎『蒙疆』 アジアをめぐる言説空間の相互接触と離反の様相をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 吳京煥・劉建輝編『日本浪漫派とアジア』	6. 最初と最後の頁 p111～p126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野正人	4. 巻 図書
2. 論文標題 ポストコロナルなアメリカ表象へ 韓国における 戦後 のアメリカ表象をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本比較文学会東北支部篇『「アメリカ言説」の諸相』	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 佐野正人
2. 発表標題 ポストコロナな視角から眺める日韓関係 1990年代以降を中心に
3. 学会等名 韓国全南大学校シンポジウム「日韓関係を東アジアの中で考える」（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐野正人
2. 発表標題 韓国比較文学会『比較文学』を読む メディア・映画研究、植民地研究、グローカリティ
3. 学会等名 日本比較文学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野正人
2. 発表標題 日韓のドラマ・映画における人間関係と愛情表現に現れた東洋思想
3. 学会等名 第31回退溪学国際学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野正人
2. 発表標題 金起林の詩と東北帝大留学
3. 学会等名 小淵恵三・金大中日韓共同宣言20周年記念金起林と平和学術セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野正人
2. 発表標題 東アジアにおける戦後の否定 ベトナム戦争、文化大革命。全共闘運動
3. 学会等名 日本学国際共同大学院国際ワークショップ「日本と『長い160年代』」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 佐野正人	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 196
3. 書名 思想・文化空間としての日韓関係 東アジアの中で考える	

1. 著者名 日本比較文学会東北支部篇	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 201
3. 書名 『問題としての「アメリカ」 比較文学・比較文化の視点から 』	

1. 著者名 ジョン・ソジョン (JunSojung)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 オルガンプレス (Organ Press)	5. 総ページ数 392
3. 書名 『 』	

1. 著者名 呉京煥・劉建輝編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 192
3. 書名 『日本浪漫派とアジア』	

1. 著者名 日本比較文学会東北支部篇	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 210
3. 書名 『問題としての「アメリカ」 比較文学・比較文化の視点から』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	長澤 雅春 (NAGASAWA MASAHARU)  (00310920)	佐賀女子短期大学・地域みらい学科・教授  (47201)	
研究協力者	吉原 ゆかり (YOSIHARA YUKARI)  (70249621)	筑波大学・人文社会系・教授  (12102)	
研究協力者	波瀲 剛 (NAMIGATA TSUYOSHI)  (10432882)	九州大学・比較社会文化研究科(研究院)・教授  (17102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	渡辺 直紀 (WATANABE NAOKI)  (80409367)	武蔵大学・人文学部・教授  (32677)	
研究協力者	金 貞禮 (KIM Joengrye)	全南大学校・人文大学・教授	
研究協力者	咸 忠範 (Ham Chunbom)	韓国映像大学・映画映像科・助教授	
研究協力者	鄭 琮樺 (CHONG Jonghwa)	韓国映像資料院・研究員	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 日韓関係を東アジアの中で考える	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 日韓関係を東アジアの中で考える	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関